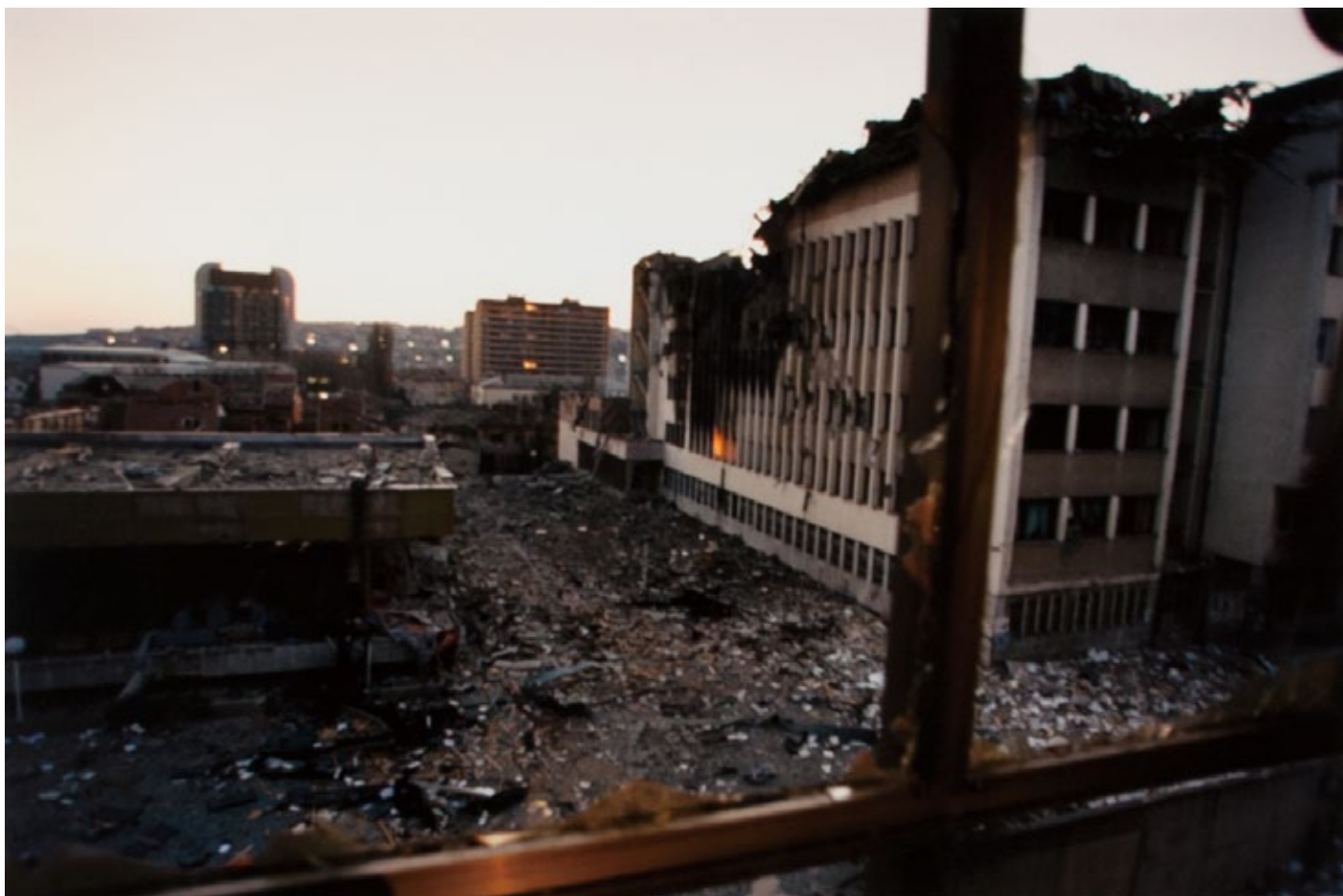


フォトシティさがみはら写真新人奨励賞歴代受賞作品展

PCS アーカイブス #5

菊池修 LIGHT IN THE SHADOWS

2020年1月25日（土）—3月1日（日）



〈LIGHT IN THE SHADOWS〉より
《A deserted city Pristina, Kosovo, 1999》 相模原市蔵

展示概要

相模原市民ギャラリーでは、小展示コーナー「アートスポット」で「相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら」で歴代の写真新人奨励賞を受賞した作品を紹介するシリーズ「PCS アーカイブス」を開催しています。第5回目となる今回は、菊池修氏の〈LIGHT IN THE SHADOWS〉を展示いたします。

本作は、欧州、アフリカ、中東といった世界の紛争地で生きる人々を撮影した作品です。本作の大きな特徴として、紛争地域の様子が極めて情緒的に撮影されていることが挙げられます。理不尽にさらされた人々の怒りや悲しみ、虚無感が、その表情や身振り、傷ついた風景からひしひしと伝わってきます。それらは、現地の惨状を伝える報道的な側面だけでなく、この世の理不尽や人間の感情に迫る普遍的な価値を備えています。

国際関係が複雑化する現代において、本展を通じて、利害関係や思想の違いを越えて他者の痛みや感情に寄り添い、相互理解や国際平和を考える切っ掛けとなれば幸いです。

開催概要

展覧会名 | PCS アーカイブス #5 菊池修 LIGHT IN THE SHADOWS

会 期 | 2020 年 1 月 25 日 (土) - 3 月 1 日 (日)

会 場 | 相模原市民ギャラリー アートスポット 〒252-0032 相模原市中央区相模原 1-1-3 セレオ相模原 4 階

開場時間 | 9:00-17:00 (水曜休館)

主 催 | 相模原市 (相模原市民ギャラリー)

後 援 | 相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら

みどころ

紛争地域の姿

本作の舞台は、いずれも世界的な紛争が起きた地域です。それらの多くは宗教的、民族的対立が過激化した結果として引き起こされましたが、その背景には冷戦や資源獲得といった、大国間同士の大きなうねりに否応なしに巻き込まれてしまった歴史があります。

今なお尾を引く当時の争いの様子を目の当たりにすることで、我々が今生きている時代、そして世界はどのような歩みと犠牲のもとに成り立ってきたかを知ることができます。

紛争地域を生きる人々の感情

上記の惨劇を生きる人々は、全てを失う理不尽にさらされ、怒りや悲しみ、虚無感に苛まれてきました。ですが、それらは果たして特定の地域に住む、特定の人々だけが抱くものでしょうか。例えば日本では、度々大規模な災害に見舞われ、財産や大切な人々を失う苦しみを味わってきた人が多くいます。そうした大きな視点に立たずとも、ひとりひとりの日々の生活のなかで何かを失ったり争いに巻き込まれたりすることの苦しみや恐怖は、全人類にとって普遍的なものではないでしょうか。

紛争の被害者を、単なる特定地域の歴史の一部として見なすのではなく、同じ世界に生きる一人の人間としてその感情に寄り添うことで、国際平和を考える第一歩となるかも知れません。

作家プロフィール

菊池 修 (きくち おさむ)

1968 年茨城県生まれ。広告写真家のアシスタントを経て 21 歳から海外を放浪。1993 年ボスニア紛争を皮切りに本格的に戦取材を開始。以降、世界各地の紛争地に赴き、独自の視点で戦争と人間を取材している。同時に、近年では映画のスチールカメラマンとしての業績も名高い。

出品作品（一部）



〈LIGHT IN THE SHADOWS〉より
《Taliban in the name of Allah Maydan Shar, Afganistan, 1995》 相模原市蔵



〈LIGHT IN THE SHADOWS〉より
《Mauling a Mobutu henchman Kinshasa, Former Zaire, 1997》 相模原市蔵

問合せ先	相模原市民ギャラリー
電話	042-776-1262
担当	山田